

たまいたま 川柳

美江賞発表



皇居東御苑

平成30年(2018年)
5月号 (No.702)

日川協加盟

巻頭言

歴史観とくつくつ

願法みつる

科学発展沸騰の今の世に、何故か歴史物が流行である。日本人は真剣勝負とともに、歴史物が好きな民族ではあるが、得てして興味本位の英雄談や戦記物であるが、世界のどの民族も、特に有識者は、それぞれの国の神話から現代にいたる歴史を、基礎的な教養として身に付けているという。テレビに登場する外国人の日本に歴史に対する知識度は、相当なものであることが認められている。

その点、日本人は、国や民族の生い立ちに関する歴史には、表皮的な知識で済ませている。為に、国民性を背景とする外交や文化・科学の交流の場で、民族知識の希薄性を痛感しつつ恥をかいている。それも戦後学校教育の弊害でもあったのだから、今更の責任は問えない。日本に関して質問される、古事記や日本書紀の歴史は、凡そ現実離れた古代的な世界ではある。しかし外からは、それが日本人のルーツである筈だと、思われている。

これから先の世は、ITで管制される世界になるかも知れない。しかしそこでの日本人は、DNAの歴史観を忘れてはいけないだろう。だから高齢者は、折に触れて基礎的な教養として、古の歴史を回顧してみることが好ましい。

それは脳の活性化に良い刺激剤になるだろう。また、あの世で恥をかかないためにも、必要ではないか。

日日是好

願法みつる

偶然と運命の差で右ひだり

閻魔から来る招待は拒まない

一本の道でしかない生から死

まともに死んで親と酌みたい月見酒

墓不要言われてみればその通り